

「世界人口推計の上方修正は止まったか？」

1. 国連人口推計 2015 年版と 2017 年版

本年 2 月に刊行した NEWSLETTER No.54 で「世界人口は 2100 年までに 112 億人」とご紹介しました。これは国連の 2015 年推計を基にご紹介しましたが、この度、2017 年推計が発表されたことから、公益財団法人ジョイセフで 2017 年 7 月 31 日に平成 29 年度人口問題協議会・第 2 回明石研究会が行われ、阿藤誠・国立社会保障人口問題研究所名誉所長・人口問題協議会代表幹事・公益財団法人アジア人口・開発協会評議員が「『国連世界人口推計 2017 年版』をどう読むか」の発表を行いました。世界の人口の趨勢について包括的に分析がなされていますので、詳細はジョイセフのホームページをご覧くださいませよう願ひ申し上げます。

<https://www.joicfp.or.jp/jpn/2017/08/17/37739/>

今回の E-NEWSLETTER では、No.54 のフォローアップを兼ねて、「世界人口推計の上方修正は止まったか？」の部分編集し、ご紹介します。

要約：

世界人口の将来推計は、2002 年推計の 2100 年に 90 億人と推計されたものから上昇を続け、2015 年推計では 112 億 1300 万人へと増加した。その理由は HIV/エイズ対策が奏功したことで、死亡が減少し、平均余命が延びた。一方、家族計画の予算が感染症予防に向けられたことで、家族計画プログラムの予算が削減され、需要を満たすだけのサービスの提供ができなくなり、望まない妊娠に伴う出生が増加したことによる。

2017 年推計では、2015 年推計に比べ、2100 年人口は 111 億 8400 万人とほとんど変化していない。その理由は、アフリカ人口の上昇修正が行われたが、アジア・ラテンアメリカ人口の下方修正が行われた結果、ほぼ相殺されたためである。アフリカに家族計画を含むリプロダクティブ・ヘルスサービスを提供する必要があるが、トランプ政権によって再導入された「メキシコシティ政策」(グローバル・ギャグ・ルール)によって、米国からの家族計画関連の国際支援が停止されたことが、深刻な影響を与える可能性がある。

(要約文責 APDA 事務局)

【平成 29 年度人口問題協議会・第 2 回明石研究会】

「国連世界人口推計 2017 年版」をどう読むか

(一部)

2. 世界人口推計の上方修正は止まったか？

(1) 2002 年から 2015 年までは世界人口推計の上方修正が続いてきた (表 1)

国連による世界人口推計は、「1990 年推計」による推計値 (2100 年に 110 億人) をピークとし、それ以降、下方修正が続き、「2002 年推計」では 2100 年が 90 億人と推計された (この時期、世界人口増加の終焉説 (IIASA: International Institute for Applied Systems Analysis 国際応用システム分析研究所、W. Lutz) が唱えられた)。ところが、その後の推計では再び上方修正が続き、前回の「2015 年推計」では、再び 2100 年には 110 億人を超えると推計された。

参考：阿藤誠「世界の人口爆発再来か？」『統計』(2016.6)

表 1 推計改定年次別・推計対象年次別・世界推計人口

(単位100万人)

推計改定年次	推計対象年次				
	1980 年	2000 年	2025 年	2050 年	2100 年
1980	4,432	6,119	8,195	9,513	10,185
(省略)					
1990		6,261	8,504	10,019	11,186
1992		6,228	8,472	-	-
1994		6,158	8,294	9,833	-
1996		6,091	8,039	9,367	10,414
IIASA 1996		-	-	9,874	10,350
1998		6,055	7,824	8,909	9,459
2000		6,057	7,937	9,322	-
2002		6,071	7,851	8,919	9,064
2004		6,086	7,905	9,076	-
IIASA 2004		6,055	7,827	8,797	8,414
2006			8,011	9,191	-
2008			8,012	9,150	-
2010			8,003	9,306	10,125
2012			8,083	9,551	10,854
2015			8,142	9,725	11,213
2017			8,186	9,772	11,184

(2) 今回の「2017 年推計」の世界人口の推計結果は 2015 年推計の結果とほぼ同様

今回の「2017 年推計」の世界人口の推計結果は、前回推計の結果とほぼ同様であり、上方修正は一応止まったかに見えるが、その内訳はどうなっているのだろうか？

(3) 世界人口推計の上方修正の主な理由：アフリカ人口の上方修正による。

アフリカの 2050 年人口は、「98 年推計」に比べると「2017 年推計」では 7.62 億人多い。これは、世界人口の 2050 年推計値の両者の差 (8.62 億人) の 88% に相当する。すなわち、世界人口の上方

修正の大部分はアフリカ人口の上方修正で説明できる。アフリカ人口の上方修正の理由は、アフリカの出生率低下が 2000 年代、2010 年代に停滞したこと、アフリカの寿命改善への懸念が払しょくされたことによる、と言える。

(4) アフリカにおける予想外の出生率低下停滞と寿命改善の理由

アフリカの出生率低下が停滞した理由は、家族計画普及の遅れと言える。アフリカの避妊実行率は 1990-2015 年に 13%から 28%にしか伸びず、満たされていない需要（アンメットニーズ）はなお 28%と高い水準にある。さらにこの時期に、国際資金援助の重点が家族計画からエイズ拡大阻止にシフトした。国際的な資金協力の急拡大により、アフリカにおける HIV/エイズの新規感染者数の増加は止まり、感染拡大は防止されつつあり、その結果、アフリカにおける寿命改善が予想外に進んだ。このことがアフリカの寿命改善の上方修正の大きな理由と考えられる。

(5) 2015 年推計と 2017 年推計の比較

上述の通り、2015 年推計と 2017 年推計を比較すると、アフリカ人口は上方修正されたが、世界人口に大きな違いはなかった。これは、アフリカ人口が上方修正されたものの、アジア・ラテンアメリカ人口が下方修正されたことで、両者が相殺されたことによる。前回と今回のアフリカの人口動態の仮定を比べると、合計出生率の仮定は違いが少なく、寿命の仮定が大きく上方修正されている。従ってアフリカ人口の上方修正は、(感染症予防・治療が普及し)死亡率の改善が予想以上に進んだためと見ることができる。

(6) アフリカ人口が急増を続けるという見通しに、当分変化は起きないか？

アフリカ人口が急増を続けるという見通しに、当分変化は起きないと考えられる。死亡率の低下・寿命の改善は一時的には人口増加の要因であるが、長期的には出生抑制の大きな要因となり、出生率低下につながる事が期待される。また出生率そのものは緩やかに低下しているものの、相変わらず高水準（TFR=5.0 前後）にあり、開発努力と同時に家族計画を含むリプロヘルス普及支援の強化が望まれる。しかしながら、今後の出生率にとっての懸念材料は、米国トランプ政権の「メキシコシテイ政策」（中絶反対に絡めた家族計画に対する資金供与停止政策）復活がそれを阻害し、アフリカの人口問題に大きな影響を与えることであり、その対策が必要になる。

(編集:APDA 事務局)



国際人口問題議員懇談会 (JPFP) 事務局

(公財) アジア人口・開発協会 (APDA)

TEL: 03-5405-8844

FAX: 03-5405-8845

E-mail: apda@apda.jp

Website: <http://www.apda.jp>

JPFP 入会をご希望の方は、apda@apda.jp までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

尚、本ニュースレターの配信停止をご希望の方は apda@apda.jp までお願いいたします。